

2018年(平成30年)12月5日(水曜日)

問われる推進の是非

「中止させるなら私を殺してからにして」。三島市の豊岡武士市長(モモ)は七月、市役所の応接室でJR三島駅南口東街区の再開発事業の反対派にこう言い放ち、床に座り込んで打ち首を待つようなポーズを見せた。この行動は市内外で物議を醸したが、豊岡市長は「不転の決意を示した」と繰り返し訴えてきた。

東街区の再開発事業の実現は、市にとって長年の悲願だった。一九九七年に国鉄清算事業団から用地の払い下げを受けて計画が開始したものの、リーマン・ショックや東日本大震災の影響で業者が撤退するなど二十年以上にわたって塩漬け状態となっていた。JR三島駅南口西街区でホテルの建設が始まり、周辺の商業地の公示地価が東部の中心と言われる沼津を上回るなど三島は活気づいている。こうした動きを最後の好機とらえ、市は再開発の事業協力者を公募。ミサワホームが代表の共同企業体(JV)を選び、八月末にJVと地権者らでつくる準備組合の三者で協定を結んだ。計画では現在駐車場の市有地と民有地計一・三畝には二〇二五年に商業施設や高層マンション、駐車場が整備されることになっている。



三島商工会議所の坪内祐一専務理事は「三島への移住定住を促進するとともに、駅前と大通りを核に回遊性を高めることのできるわいが創出され、市全体の活性化に大いに

寄与する」と期待を寄せる。

ただ、東街区の再開発をめぐっては一部住民の反対も根強い。総事業費は二百二十億円、市の負担は六十一億円に上る。景観や地下水への影響を懸念する声もある。川勝

平太知事は「駅前にマンションは似合わない」と見直しを求め、発言を続けてきた。計画に反対する地元の人

O法人「グランドワーク三島」の渡辺豊博専務理事は「観光客の誘致など広域的な

視点を欠いた計画でもったいない上、地下水の汚染に関する不安も払拭されていない。駅前ににぎわいが集中し、商店街の衰退につながる恐れもある」と批判する。

現在、市長選には現職を含む三人が立候補を表明している。東街区再開発について豊岡市長は「手をこまねいていると開発業者が撤退しかねない。早急に推進すべきだ」と主張。一方、新人の会社役員石井真人さん(三)は「老朽化した市庁舎の建設なども併せて考え、計画は見直しをしなければいけない」。新人の元県議宮沢正美さん(六)も「計画を見直し、県やJRと協議して南北自由通路の整備も含めた計画にすべきだ」と、現職との違いを強調している。

計画の推進か、見直しか。新しいリーダーによって、三島の顔となるJR三島駅南口東街区の姿は大きく変わるようになる。

◇ ◇
十六日投票の三島市長選が九日、告示される。市長選を前に、JR三島駅南口の再開発や、観光客誘致のための広域連携の強化など市政の課題を探る。

(この連載は佐久間博康が担当します)

三島駅南口東街区再開発



駐車場として利用されているJR三島駅南口東街区の用地。市の計画では高層マンションや商業施設などが整備される＝三島市一番町で

三島市の課題

12・16 市長選

上